４月の農作業

平成22年４月12日
ＪＡテラル越前
奥越農林総合事務所

今月のポイント

★水稲の健苗作り・圃場準備
★麦の穂肥・防除
★園芸作物の圃場準備・定植
★花卉の作業

1．今後の気象予想

（新潟地方気象台）

—北陸地方　1か月予報—

〈3月27日から4月26日までの天候見通し〉

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

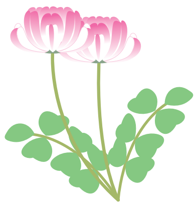
週別の気温は、1週目は低い確率50％です。

〈向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）〉

		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
【気　　温】	北陸地方	40	30	30
【降 水 量】	北陸地方	30	40	30
【日照時間】	北陸地方	30	40	30

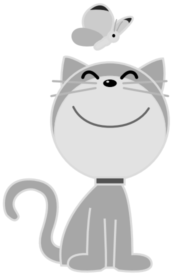
〈気温経過の各階級の確率（％）〉

		低い	平年並	高い
【１ 週 目】	北陸地方	50	30	20
【２ 週 目】	北陸地方	40	30	30
【３～４週目】	北陸地方	30	30	40



〈予報の対象期間〉

１　か　月：３月27日（土）～４月26日（月）
１　週　目：３月27日（土）～４月２日（金）
２　週　目：４月３日（土）～４月９日（金）
３～４週目：４月10日（土）～４月23日（金）



北陸地方3か月予報

〈4月から6月までの天候見通し〉

予想される向こう3か月の天候

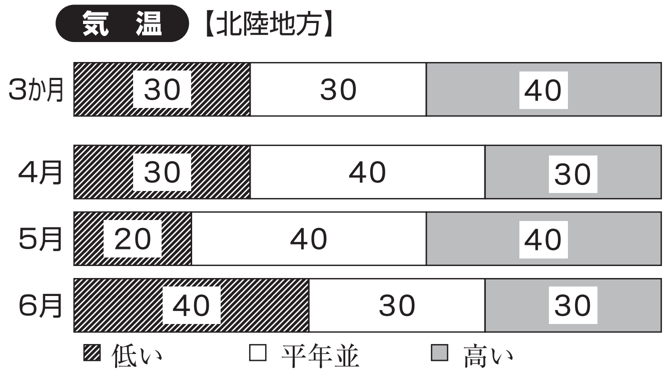
向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は左記のとおりです。

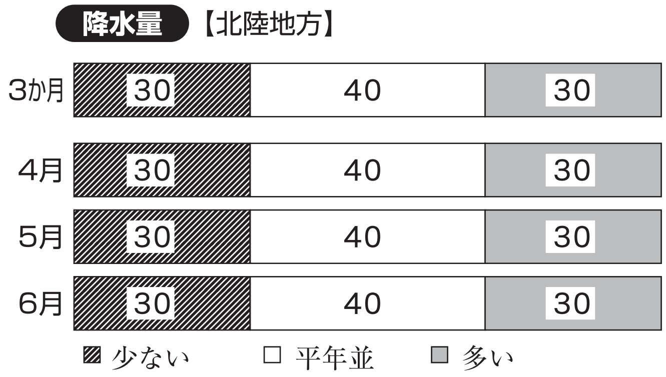
【4月】
天気は数日の周期で変わるでしょう。

【5月】
天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は平年並または高い確率ともに40％です。

【6月】
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温が低くなる時期がある見込みです。

〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）〉





2．農産物対策

水　稲

昔から苗半作と言われていますが、健苗を作るためには、うす播きをすることが基本であり、これからの育苗管理が重要なポイントとなります。

コシヒカリの5月10日以降の田植えにおける育苗管理注意事項

芽出苗の被覆目的は保温と軽い遮光ですが、5月10日以降の田植えに合わせた育苗では、気温も高く日射量も多くなり、換気をしないとハウス内温度が40度以上の高温となり、苗を焼く原因となります。対策としては今まで以上に注意深く換気し、ハウス内温度が30度を超えないよう努めてください。（ハウス内温度：ハウス内低部の水稲苗付近の温度）

1、今後の育苗管理

健苗作りのポイントとなるのが緑化期の光と温度です。発芽苗を緑化させる場合、急に強い日光を当てたり、昼夜の温度差を与えないことが重要であり、高温になると徒長し腰の弱い苗になるので注意しましょう。

灌水は緑化してから行いますが、育苗センターの発芽を利用する方は、配達された苗が乾いている場合は、灌水し保温してください。

育苗中期の管理は温度・水管理が重要であり、日中高温の状態になると苗が徒長するので注意してください。霜が予想される日は、二重被覆等により保温に努めましょう。

また水管理については、根を良く発達させるため全般的に節水管理に努め、灌水は午前中に一回当りたっぷり灌水するように心がけましょう。

田植えの4～5日前からは外気に慣らすため、霜が予想される日以外は、夜もビニールを外し、苗を硬くしてください。

2、本田準備

⑴　耕起作業

苗の生育を安定させるには、充分な作土深（15㎝以上）を確保し根の伸長を促進させることが重要なので、出来るだけ深耕に心がけてください。またこの時期にある程度の田面の均平化に努めましょう。

⑵　代かき作業

湛水量が多いと稲株・雑草の埋没が不十分となり、田植え作業に支障をきたします。代かき作業時は田面全体に土が見える程度に湛水すると、圃場を綺麗に仕上げることが出来ます。

また、代かきで問題になるのが、「かきすぎ」です。土を煉りすぎ

ると酸素不足になり、活着が悪くなるので、土塊が少々残る程度に仕上げましょう。

(3) 元肥の施用

初期生育を促進し健全な稲体を作るためには、元肥の施用法が重要なポイントであり、営農のしおりを参考に施肥基準を守り、田植え後早期に活着させ発根を促しましょう。

3、田植え

田植えは寒い日に行うと、活着が遅れ初期生育が悪くなるので、風の無い暖かい日に行いましょう。

また雨の日の田植えは、太植え・深植えになりやすいばかりでなく、側条施肥の場合は肥料詰まりになるので避けましょう。

植え付け株数は1株当りの有効茎歩合を高めるため、坪当り60～70株以内とし太植えにならないように注意してください。

活着までの数日は、天候の良い日は浅水管理をして地温を上げるようにしましょう。

4、除草剤の散布

除草効果を高めるためには、初期の水管理が最も重要であり、一発処理剤の場合、散布後5日間は落水やかけ流しをしないことが第一条件です。また使用薬剤・散布時期も重要であり、気象状況を把握し、圃場に適した除草剤を使いましょう。

大麦

大麦は、今後の管理が収量・品質に大きく影響しますので、次の管理を徹底しましょう。

1、病害防除

○赤かび病

赤かび病に侵された大麦は有害なため、検査規格から外れることがあるので必ず防除してください。

防除時期・薬剤

（粉剤による防除）

1回目…穂揃期　ワークアップ粉DL　3kg／10ａ

2回目…1回目の7～10日後　トップジンM粉DL　4kg／10ａ

（液剤による防除）

1回目…穂揃期　トップジンM水（1,000～1,500倍液　100～150リットル／10ａ）

2回目…1回目の10日後　チルト乳25（1,000～2,000倍液　60～150リットル／10ａ）またはシルバキアフロアブル（2,000倍液　60～150倍リットル／10ａ）

（無人ヘリによる防除）

1回目…穂揃期　トップジンMゾル（8倍液　0.8リットル／10ａ）

2回目…1回目の10日後　チルト乳25（8倍液　0.8リットル／10ａ）またはシルバキアフロアブル（16倍　0.8リットル／10ａ）

2、排水対策

これから周囲の水田が湛水状態になると、浸透水の影響で湿害を受け、収量・品質低下をもたらすので、排水溝の整備を万全にしてください。

里芋

植え付け方法

・植え付け時期

4月中旬～下旬

・栽植密度

10ａ当り約2,800株

・ホーラー（里芋専用穴掘器）で20～22cmの穴を開けます。穴底にアドマイヤー1粒剤1gを覆土と混和して、芋の芽を上にして植え付けます。覆土は掘り上げた土で、種芋の上に軽くのる程度に入れてください。

ネギ

育　苗

・ネギの生育適温は15～20度です。10度以下の低温が続くと生育は停滞し、25度以上の高温が続くと軟弱徒長し生育は緩慢となります。

・苗の表面が乾いてきたら、午前中に灌水します。

（注意）夕方の灌水は苗床温度が低下するので行わないでください。苗箱の底に水が停滞すると発根が悪くなるので、停滞しないように苗箱を浮かすなどの工夫をします。

定　植

・定植適期の苗は葉数2枚程度、草丈15～17cm程度。20cm以上の草丈になると「根がらみ」をおこし、「ひっぱりくん」での定植が困難になります。

・日中の平均気温が12度を超えたら定植適期となります。

追肥・土寄せ

・定植直後の植え付け肥は株元から少し離れて施します。

・10日目の土入れは、株元に土を寄せないようにします。

・追肥は土入れ時に、土と混合しながら株元に寄せます。

除　草

・定植活着後に、ゴーゴーサン乳剤30を10ａ当り200ml、水100リットルに希釈して散布します。または、ゴーゴーサン細粒剤Fを10ａ当り4kg、土が湿った状態で散布します。（定植10日後までに1

回のみです）

ナス

畝作り

・根を深く広く張らせ、生育後半まで樹勢を維持させるために40cm以上の高畝にします。

定　植

・定植1～2日前に植え穴を掘り、十分に灌水しておいてください。

・定植には、晴天・無風の温暖な日を選びます。

・高品質なナスの多収を図るために生育中の主枝間隔35cm～40cm確保することが必要です。主枝4本仕立ての場合は、株間70cm～75cmとします。

トンネル被覆

・霜害の回避と活着促進のため、定植後すぐにポリビニールでトンネル被覆をします。尚、午後4時までにトンネル掛けが終わるように1日の定植本数を考慮します。

トンネル管理

・定植後2～3日間は活着を促すため密閉します。その後に換気作業に移ります。ナスは35℃以上で花粉の活動が止まり落花します。また、10℃以下でも石ナスや変形果が多くなるので、トンネル内の温度には十分に注意してください。

・午前8時頃に換気を開始し、午後4時頃に裾を閉じると良いです。

・5月中旬頃から徐々に外気に慣らし、霜害が無くなる下旬頃にはトンネルを取り除きます。苗の生育が良い場合は、トンネルに触れないうちに早めに除去してください。

花卉

キク

6・7月咲き（暮植え）の管理

○芽立ちの良い品種は粗すぐりをします。後でと思っていたら、出荷時に茎が細く、ボリュームが出ません。

○草丈30cmになったら小ギクは6本、中輪ギクは5本1マスに入るよう間引き(すぐり)をします。

8月咲き（春植え）の管理

○畝作りと施肥

畝巾1m・通路30cm・高畝とします。施肥　有機ペレ20kg／30m前後（多肥の場合は30％増、またはロング肥料2kgを入れます）

○マルチ張り

マルチを張る場合、施肥後十分雨に当てて水分が畝に残っている間にマルチを張ります。乾いてからマルチをするとキクの生育が悪くなります。

尚、天気の良い日中に作業を行うとその後の管理がしやすくなります。（マルチが良く伸びて張りやすいためです）

○定植

発根した根が2cmくらいになったら定植をします。4月下旬までに行いましょう。

あまり深植えしないことです。（活着が遅れます）

定植したら、すぐに根付け肥（ＯＫＦ－1）を施用します。

○ピンチ

定植後5日～10日でピンチを行います。ピンチ漏れがあると、生育が不揃いとなるので確実に行いましょう。

（花芽分化期までの日数を45日として草丈を確保します）

未展開の芯部を指先で押すように折ります。

病害虫防除

キク作りは病害虫の予防が重要です。系統の異なる殺菌・殺虫剤を使用基準に従ってローテーション散布してください。

○白さび・黒斑褐斑・灰色カビ病

主な使用農薬

エムダイファー水和剤・ジマンダイセンフロアブル・ダコニール1000・ベンレート水和剤・ラリー乳剤など

○ナモグリバエ

キクの葉に白いポツポツ(産卵痕)や白い蛇行した線(食害痕)があったら治療薬を散布してください。

主な使用農薬

アルバリン粒剤・カルホス乳剤・カスケード乳剤・ダントツ水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤(土壌灌注)など

○アブラムシ

主な使用農薬

スミチオン乳剤・ベストガード粒剤・アドマイヤーフロアブルなど

ユリ

圃場準備

○定植前に土改材と元肥を施用し細かく耕起します。

○畝巾120cm・通路30cm高畝とします。畝立て後にダイシストン粒剤を混和しておきます。

○降雨後に白黒マルチを掛けます。

定　植

○定植は根が乾かないように素早く行ってください。（浅植え）

○定植直後には活着を促すために根付肥を灌水代わりにたっぷりと与えます。

○初期生育を旺盛にするため6月上中旬頃までは、液肥（ＯＫＦ－1　500～1,000倍）を1週間に一度ずつ施用してください。